



食にかかわる専門家を支える NPO法人 食生態学実践フォーラム

■第 19 回総会報告

2022.5.22

今年度の総会も感染症予防対策をとり Zoom によるオンライン開催となり、会員には事前に資料を送付し、書面表決をする形となりました。会員 66 名のうち、46 名の書面表決書の送付があり、過半数を超えていますので総会として成立しました。当日 Zoom によるオンラインでの参加者は 17 名でした。

冒頭の針谷理事長のあいさつでは、2021 年度も感染症拡大防止のため一部研修会の中止、地域での研修の縮小などがあったものの、オンラインでの開催など会員の皆様の工夫とご支援で、活動をすすめることができたこと、しかしながら子どもたちの生活や食が、このコロナ禍でますますいろいろな困難を顕著にしていることを痛感するとし、「誰一人取り残されない」の視点からいま何が必要なのかを考えるため、7 月 17 日に総会研修会をオンライン開催するので参加してほしい等の話がありました（次項参照）。

第 1 号議案 2021 年度事業報告、第 2 号議案 2021 年度活動計算書、貸借対照表及び財産目録の説明があり、反対なく承認されました。会員の減少は多少いたしかたがないものの、今後さらなる増加の努力が必要でしょう。集まって実施する研修や会議がいろいろ工夫されて、オンラインで実施できたことはよかったと思いました。第 3 号議案 2022 年度事業計画・第 4 号議案 2022 年度活動計算書についても承認されましたが、2022 年度事業計画については、2022 年度「食生態食育プロモーターズ」研修計画に記載のある研修も加え修正がされ承認されました。

今年度は「食生態食育プロモーターズ」研修制度が再編強化され、わかりやすくなりました。また、栄養改善学会自由集会への参加も再開され、「3・1・2 弁当箱法」の自給率の部分に特化したリーフレットの制作や、高齢者向け「3・1・2 弁当箱法」のパンフレット作成も継続され、徐々に本来の活動へ向かっていきますので、会員の皆様もぜひ積極的にご参加ください。

野渡祥子（フォーラム監事）

■総会 理事長あいさつ

皆様、こんにちは。会員の皆様には、お変わりございませんでしょうか。本日は、お休みの中、ご参加いただきありがとうございます。また、日頃は活動に参加、ご協力いただきありがとうございます。

日々、新型コロナウイルス感染症報道に加えて、ロシアによるウクライナ侵略のニュースに、皆様も胸のつぶれる思いをされていることと思います。人命、領土、あらゆる生活資材を奪い、

崩壊しています。さらには、ウクライナ産の穀物を略奪し、恣意的な分配の疑惑が報じられ、干ばつで苦しむアフリカ、中近東ばかりではなく、世界的な食糧不足により 2 億 2300 万人が飢餓に直面すると危惧されています。この困難の回避に当法人として何ができるか、皆様のお知恵をお借りしたいと存じます。

さて、前理事長の突然の辞任を受けて、新体制ではこれまでの活動を低下させないように、と緊張感をもってすすめてまいりました。担当者から 2021 年度の活動の詳細は報告をさせていただきますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、オンラインでの会議、研修会開催となり、活動規模が残念ながら縮小しました。しかしながら、各事業はおおむね予定どおり実施できたと、自画自賛になりますがとらえています。

このような中での 1 年でしたが、特徴的な取り組みを 2 例、紹介させていただきます。

1 つ目は、「3・1・2 弁当箱法」の名称やロゴマーク等の使用について、フォーマットを作成して、申請をしていただくことをはじめました。きっかけは、①前年度、著作権にかかわるような事案が 2 件発生したこと、②そこまでは至らないまでも疑問が残る活用がみられたこと、③引用は書かれてはいるものの内容の誤用などを散見することが多くなってきたこと、でした。

申請内容は予想どおり課題の多い例もありました。申請件数は予想を超えて多く、40 年の時を経て、皆様のご協力により普及されてきたことに感謝する次第です。活動としては、申請者とのやり取りをとおして、出版関係や行政など、支援先が多様になっていると実感しています。

2 つ目は「食生態食育プロモーターズ」養成の研修会の見直しです。オンラインでの研修会では、実習を各自が家庭で行うなど工夫や検討をして実施しましたが、これでよいのかと不安は残りました。しかし、参加者がオンライン研修会のメリットを実感されご自身の活動に取り入れたい、そのための教材・資料提供、講師派遣等の意見や要請等をいただきました。これらを新たな活動の課題と受け止めました。

このようなニーズに応えるために、今後はオンラインでの開催は必須になると思われますので、「研修会」を見直しました。「食生態食育プロモーターズ」養成は、活動を共にすすめていく仲間・会員を増やそうとして取り組んできた制度で、そのために研修会を実施してきました。制度の改革を一体的にとらえて、認定規定、研修会の開催方法や内容などを見直し、計画的かつ認定を取得しやすいように整備しました。後ほど、規定や開催案内等はさせていただきますが、今年度は気持ちも新たに取り組んでいきたいと考えております。

是非ご参加いただき、皆様には忌憚のないご意見をお願いします。
ます。以上、簡単ですが、ごあいさつとさせていただきます。

針谷順子（フォーラム理事長）

■ 2022 年度総会研修会

子どもの育ちを「食」から支援するために 「誰一人取り残されない」の視点から

2022.7.17

上記のテーマのもと、2022 年 7 月 17 日（日）13：00～15：00 に 60 名の参加者を得て実施いたしました。実施日直前にはコロナ感染者数の急増、第 7 波突入のニュースが飛び交っていましたが、昨年度に引き続きオンラインで計画していたため無事に実施できたことを安堵した次第です。

基調講演は「子どもの権利と子ども期の保障－『食』の位置と役割を考えるために」のテーマで、増山均先生（早稲田大学名誉教授、日本学童保育学会代表理事）がご講演くださいました。子どもの権利を総合的に保障するために、①生存権保障の課題、②生活圏保障の課題、③学習権保障の課題、④休息・余暇権、遊び権、文化権保障の課題、⑤更生権保障の課題、⑥自治権・社会参加権の課題といった多面的・複眼的にとらえていく重要性を、コロナにより子どもたちが受けた規制とその影響を具体的に示しながら解説くださいました。現場からの問題提起は、発達障害の子どもたちの「食（おやつ）」の場面での姿について、埼玉県「にじいろ学童保育所放課後児童クラブ」支援員である河野伸枝先生、児童養護施設の子どもの「食」の自立支援を、「社会福祉法人松柏児童園西台こども館」栄養士の丸山みつほ先生が、それぞれご報告くださいました。これらを受けて、座長の平本福子氏の進行で質疑応答の時間となり、参加者から感想等が多く語られました。その中で、「増山先生がご提案くださった 6 つの視点は、いずれも『食』には含まれる」との発言に、「食」にかかわる仕事に携わる者として大変うれしく、また勇気づけられました。その視点から、再度自分の仕事を見直し、子どもの育ちを「食」から支援できるような活動をしていきたいと改めて気づかされる研修会となりました。

（フォーラム HP「ブログ」にも関連した記事を掲載していますので、ぜひご覧ください。また、学習会の詳細は「食生態学－実践と研究 Vol.16」にて報告いたします）

高橋千恵子（フォーラム理事）

■ 「食生態食育プロモーターズ」認定証を送付しました

「食生態食育プロモーターズ」の研修会と単位の認定について、59 号でお知らせをしました。その内容にそって、昨年度中に研修会に参加され、単位を修得された方にそれぞれ単位を加算しました。さらに、会員一人ひとりの 4 年間の単位取得状況を調べました。そして、認定規定に基づき、令和 4 年 6 月 19 日に認定会議が開催され、認定条件となる単位を修得されてい

た方が「食生態食育プロモーターズ」として認定されました。

○食育教材「3・1・2 弁当箱法」食生態食育プロモーターズ
B コース 9 名

○食育教材「さかな食育」食生態食育プロモーターズ B コース
12 名

の方に認定証を送付いたしました。

今後も、毎年 6 月には認定会議を開催し、認定された方に「食生態食育プロモーターズ認定証」を送付していきたいと思えます。会員の皆様が食にかかわる専門家である「食生態食育プロモーターズ」として活動していただければ幸いです。

詳しくは、フォーラム HP「食生態食育プロモーターズ」をご覧ください。
原田由美子（フォーラム理事）

■ 2022 年度 食育教材「3・1・2 弁当箱法」

食生態食育プロモーターズ A コース研修会

7 月 17 日、総会研修会のあと、食育教材「3・1・2 弁当箱法」食生態食育プロモーターズ A コース研修会（以下、A コース研修会）についての説明会を行い、9 名の会員の方が参加してくださいました。今回の A コース研修会は、初めての試みで、基礎編と実践編を統合し、5 回の開催を予定しています。

研修の目標は、「3・1・2 弁当箱法」のこれまでの学習とともに、実践性の高い食育や食環境づくりの教材として 40 年来制作してきた「食育カレンダー」を活用し、食事構成（献立作成）力のスキルアップに取り組むことです。

研修の内容は、「3・1・2 弁当箱法」を活用し、若い世代を意識した食事構成（献立）を考え、テーマにそって各自が考えた献立を、全員で共有、検討し、試作をふまえて、最終的にはパンフレット等、具体的な成果物の作成を予定しております。

講師には、食生態食育プロモーターズ講師の針谷順子（当フォーラム理事長）、高増雅子（当フォーラム理事）のほか、「食育カレンダー」成作に関わっていただいた編集者、カメラマン、スタイリストの方々をお招きし、ミニ講話の開催や、食事・料理をおしゃれに演出するカービング教室を開催する予定です。

高増雅子（フォーラム理事）

● 会費納入のお願い

2022 年度年会費をまだご納入いただいていない方は、お振込をお願いいたします。

[振込先] 三菱 U F J 銀行・高田馬場支店（普）1517770

特定非営利活動法人食生態学実践フォーラム

● 事務局の開室日

今年度の開室日は、原則として火曜日と金曜日となっています。開室時間は 10：00～17：00 です。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、在宅勤務の場合もあります。事務局不在の場合はホームページの「お問い合わせ」からご連絡ください。